

## インカレスプリント開催の議論

2014年度インカレロング実行委員長

山上大智（東京大学 07 入学）

2014年3月7日（インカレミドルの前日）に行われたインカレスプリント実験大会を経て、次に本大会の開催に関する議論となるかと思えます。

現在、2014年度のインカレロング（10月12日）の前日に行うという計画が検討されており、東大大会前日（2014年5月31日）に学連で議論が行われると聞いています。

今回この資料では、それぞれの検討課題に対しての（あくまで個人的にですが）考察を記載しました。議論をしていく上での参考資料として用いていただけたら幸いです。

### ▼ インカレスプリントを行う意義（学生の競技という視点で）

- ▶ フットオリエンテーリング4種目（ロング、ミドル、スプリント、リレー）すべての競技で学生選手権者を決める。
- ▶ スプリントは山でのナビゲーションは苦手だが走力はあるという人にも上位進出のチャンスがあり、より幅広い人にインカレでの活躍という楽しさを感じる機会ができる。
- ▶ 特に「観戦・応援」が重視されるインカレにおいて、それらとスプリント競技は相性が良く、他の競技とは違ったオリエンテーリングの魅力を感じることができる。
- ▶ オリエンテーリングは競技テレインのタイプへの慣れが結果にある程度影響するため、開催地に近い選手が有利になる。一方でスプリントは他の種目と異なり開催地による有利不利が少ない競技であるため、4年間という限られた期間しかないインカレで開催地という要素無しに競うことができる。

### ▼ インカレスプリントを行う意義（その他の視点で）

- ▶ 世界オリエンテーリング選手権（WOC）において、今年からロングとミドルに出場できる選手が各国のランキングに応じて変わる事となった（オリンピック個人競技のような感じ）。  
日本からは男女それぞれ  
『ロング1人、ミドル1人、リレー3人、スプリント3人、スプリントリレー2人』  
となるため、出場選手の半数がスプリント種目となり、スプリントに強い選手が望まれる。
- ▶ 世界的にもスプリント重視の流れとなっている。これは、スプリントは他の種目よりも観戦や演出が行いやすい競技であり、テレビ放映などを通じて人気の拡大、オリンピック競技の導入への足掛かりなどの理由がある。

### ▼ インカレスプリントを行う上での問題点

- ▶ 開催スケジュール上の問題点

ロング前日、ミドル前日、ロングとミドルとは異なる日程の3案が考えられるが、

◆ ミドル前日

- ・3競技を連続で行うことによる選手・運営の負担増
- ・開会式もあることによるスケジュールの圧迫

◆ 独自日程

- ・インカレが年3回となることによる学生の（特に金銭的な）負担増
- ・スプリント単独では競技者、観戦者共に集まらず、インカレらしさが減少する恐れがある。

などの問題点が考えられ、ロング前日というのが基本路線である。

ロング前日でも

- ① ロング前日の競技となることに対するフィジカル的な負担増
- ② 土曜日に講義がある大学について参加が難しくなる

といった問題があるが、それに対しては

- ① スプリントとロングで両方とも力を入れる必要があるという訳ではない。スポーツの大会では種目によって選手が異なるのは一般的であるし、オリエンテーリングにおいてもミドル・リレーは人によって2つの競技への比重が異なる人も現状でいる。もちろん両方の競技で上位を狙う人もいることは考えられるし、それは決して難しいことではないだろう。
- ② これに関しては、今後の秋インカレは3連休で行うことを基本路線にするなどして、大学の講義との重複を避けるようにするなどが考えられる。なお春インカレ前日にしても、（理系の4年生など）大学の日程が入っている人はいることが考えられる。

と考えられ、他の日程よりは問題が少ないと考えられる。

➤ 運営上の問題点

ロングの運営に加えてスプリントを行うことで、運営の負担が増える。

ただし、これは決勝1本か予選決勝かでまったく変わってくる（詳細は後述）。

➤ 地図作成上の問題点

ロング競技とはまったく別のスプリントの地図を作る必要が出てくる。

地図の作成自体は、プロマッパーの方が増えたため解決可能ではありそうか？

ただし地図の作成費用を回収できるのか、という問題はある。

▼インカレスプリント開催のために行う必要のあること

1. 開催形態の議論・決定

インカレスプリントを開催するか、開催する場合はどのような形態とするかを議論・決定する必要がある。詳しくは後述。

## 2. 規約の作成

規約の作成作業自体は、開催の形態さえ決まれば現在あるインカレ規則を改変するだけで、そこまで大変ではない。今回私の方で、作成が必要な箇所について記した資料を作成したので、確認していただきたい。

## 3. 規約の承認

日本学連総会で。セレクションは8月中には終わってほしいことを考えると、それ以前に行うのが望ましい。

次ページから、実際に議論していただきたい項目について記載しています。

## ▼ インカレスプリント開催の際の検討課題とその考察

以下いくつかの検討課題について記載した。

ただし、学連で特にして決めてほしいのは、規約で記載する必要のある

1. スプリント競技部門をインカレに設けるか
2. 競技形式（予選決勝方式 or 決勝1本）
3. 選手権の人数
4. セレクションについて

である。他の課題は学生の希望を最大限尊重しつつ、実行委員会の方で運営やテレインの都合を考慮して決定するという形にさせていただけると幸いです。

### 1 スプリント競技部門をインカレに設けるか

まず第一に、上で挙げた「インカレスプリントを行う意義」や「インカレスプリントを行う上での問題点」、先に実施した「インカレスプリント試行大会に対するアンケート」などを考慮した上で、「スプリント競技部門をインカレに設けるか」を議論・決定してほしい。

### 2 競技形式（予選決勝方式 or 決勝1本）

#### 2.1 決勝1本

- 設定するコース数、用意する資材が少なくなり運営が容易（選手権の決勝1本の運営ならコースは2つで済み、かなり運営は軽くなる）
- スケジュールの余裕が大きくなり、モデルイベントの時間も十分取れる。
- テレインに広さがあまりいらず、モデルイベントとの共催が行いやすい。
- × 各地区の通過人数が少なくなり、より多くの人に選手権での活躍のチャンスを与えることが難しくなる
- × 一度枠が減ると取戻すのが大変になる（現在のミドル女子Aエリートのように）。
- × 予選参加者がいないことにより、応援者の数が減少する（モデルイベントとの共催や一般クラスによってカバーする？）

#### 2.2 予選決勝方式

- 地区セレで通過する人数が増やせるため、比較的経験年数の少ない人や、技術的には未完だが走力に秀でている人など、多くの人にチャンスができる。
- 決勝進出時のボーダー争いの盛り上がり期待できる。
- 前年度決勝進出者を地区予選免除とすることで、地区予選運営者の確保も可能（以前インカレミドルが予選決勝だった時代の方式）
- × 時間がかかり、スケジュールが圧迫される。その結果としてモデルイベントの時間が少なくなる・厳しくなる、シビアな運営を強いられるなどの問題が生じる。

- × 予選コースの設定、予選の運営、決勝進出者確定後の対応など運営の負担が非常に大きくなる、人員を多く確保する必要がある
- × 決勝出場者は2本走ることになり、体力的な負荷が大きくなる
- × より広い地図が必要となり、プロ Mapper の拘束時間、地図作成費用が大きくなる。
- × 予選決勝のコースを組むために、モデルイベントとは場所を変えて行うことによる移動の問題が生じる、あるいは同一の場所で行うためにコースの質が落ちる可能性が高くなる。

### 3 選手権人数

#### 3.1 予選決勝方式の場合

予選出場人数と決勝出場人数とを決める。

決勝出場人数は、男子だと40人（各レーン10人×4レーン）、女子だと決勝進出者が15～20人（各レーン5～10～×2～3レーン）くらいが妥当か？

そこから考えると、予選出場人数は決勝出場人数の3～4倍（男子120人、女子45～60人）？

#### 3.2 決勝1本のみ

男子40～60人、女子15～30人くらい？

### 4 セレクションについて

#### 4.1 各地区学連に割り振る

他の個人競技と同様のもの。まず各地区に1～2人ずつ割り振った上で（この人数は予選決勝方式か決勝1本かで変わる）、前年度の実績に応じて枠が決まる。初年度は加盟員の人数で割り振る？

ただし、地区学連内でどうやって決めるかという問題があり、おそらくセレクション大会の開催が一番適当だと思われるが、その開催をいかにするかという問題が生じる。

#### 4.2 全日本スプリント E 権の保持者を通過者にする

特別なセレクションを行わなくて済む。ただし

- ・今回の場合はこの議論の後で開催される公認 S カテゴリーの大会が少なく、不適當
- ・全日本スプリント E 権だと選手権参加者の数が読めなくなる

といった問題点がある。

#### 4.3 大会の最上位クラスの上位 1/10 の成績を出したものの

前回の試行大会で採用された方法。特別にセレクションを行わなくて良いことがあげられる。

ただし、

- ・非常にあいまいな選抜方法
- ・該当者が多かった時にどう選抜するか

といった問題点がある。

以下の課題に関しては、できれば学生の希望を最大限尊重しつつ、運営の都合で判断するという形にさせてもらえるとう幸いです。

## 5 テレイン（モデルイベントとの共催重視か、競技性重視か）

まず前提として、スプリントは森林エリアではなく公園や市街地で行われるべきという見解が出されている。スプリントのように短時間で数秒を争う競技にとって、森林ではどんなに良い地図でもその走行可能性を正確には表しきれないため、運の要素が大きくなってしまふからである。

またスプリントの特性である観戦・演出を生かすためにも、公園や市街地の方が好まれる。

ただし、日本においてはオリエンテーリングの認知度・理解度が低く、市街地で行うことは非常に困難であるため、基本的には公園で行われると思われる。

### 5.1 モデルイベントの共催重視

スプリント試行大会の時の矢板運動公園のような場所で行う。

- モデルイベントと共催することで参加者を確保でき、インカレに相応しい舞台になる。
- スプリント競技とモデルイベントでの移動が無くなり、参加者・運営者ともに負担が減る
- × インカレ開催地区によってはモデルイベントとスプリントを共催できるとは限らない
- × 予選・決勝方式の場合は、予選決勝両方を質の高いコースを組むのが難しくなる、あるいは予選のみ別の場所で行うことによる移動の問題が生じる

### 5.2 競技性重視

広めの公園（など）で行う。

- インカレロング開催地区がどこであろうと、予選決勝方式であろうと、質の高いコースを組める場所はだいたい見つけれられる
- × モデルイベントの会場まで移動が必要になり、観戦者が減少する、競技者・運営者の負担が増加する

## 6 一般クラスを設ける場合

- 参加者数の増加により収支が良くなる
- 一般クラスが無いと来ない人が増え、選手権出場者の応援が少なくなり、インカレらしさがなくなる（モデルイベントと併設する場合は問題ではない？）
- × 時間的に余裕が少なくなる（ただし予選決勝方式の場合は予選の裏で一般クラスを行うので、予選決勝方式にすることに加えて更に時間がかかるわけではない）
- × コース数の増加、資材の増加による運営負担の増加

以上。

## インカレロング 2014 におけるスプリント競技の計画

インカレロング 2014 実行委員長 山上大智

2014年10月11～12日に行われるインカレロングにおいて、10月11日（土）にスプリント競技を実施する方向で計画している（正式に学生選手権として行う場合も、それには至らない場合も試行大会として）。

現在の段階で、どのような形で行われるかの見込みを下に記載した。具体的な計画があった方がイメージが湧き、議論しやすいと思うので、参考にしていただければ幸いです。ただし、あくまで現時点での計画であり、詳細なスケジュールは変更される可能性があること、ご了承いただきたいと思います。

### ▼ 場所

とりむパークかなづを会場とし、モデルイベント・スプリント決勝ともに行う予定である。

ただし予選・決勝方式の場合は、以下の2通り考えている。

#### ➤ 予選もとりむパークかなづで行う

移動が無い場合、参加者・運営者ともに負担が少ない。

ただしレイアウト的な制約からコース設定は非常に厳しく、スプリント競技と呼ぶにふさわしいものが提供できるかは不明。

#### ➤ 予選を他の場所で行う

三国運動公園などを考えている。コース設定的にはスプリント競技に相応しいものを提供できる。

ただし移動に車で30分ほどかかり、時間的な余裕が少なくなる。また運営的にも2か所で運営を行うために人員や資材がより多く必要となり、負担が増える。

### ▼ タイムテーブル

#### ➤ 決勝1本、男子60人女子30人<sup>※1</sup>、スタートは1分ごとで男子と女子は別々<sup>※2</sup>とした場合

11:30 選手権出場者隔離

12:00～14:00 選手権競技

14:00～16:00 モデルイベント

※1 決勝の人数を男女合わせて60人にした場合、スプリントの時間は30分短縮される。

※2 男女同時スタートとした場合、スプリントの時間は（競技者の少ない）女子の人数分短縮される

例) 決勝1本、男子45人女子15人、男女同時スタートとした場合

12:15～ 選手権出場者隔離

12:45～14:00 選手権競技

14:00～16:00 モデルイベント

➤ 予選決勝とした場合

10:00～11:00	予選（男子を 40 人とした場合）※1
～12:30	決勝進出者への対応（、移動）
12:30～	選手権競技者隔離
13:00～14:30	選手権競技
14:30～16:00	モデルイベント

※1 予選と決勝の間を最大限短くした場合。競技者的にも運営者的にもあと 30 分は余裕が欲しいと思う。その場合、予選を 9:30～10:30 にするか、モデルイベントを 15:00～16:00 にするか。



## 日本学生オリエンテーリング選手権実施規則

※ 条項に(ロング)、(ミドル)、(リレー)<sup>+(スプリント)</sup>とある場合、当該条項は、該当する競技部門にのみ適用される。

### 第1章 一般的な規則

#### 第1条 規則の適用

1.1 この規則は、日本学生オリエンテーリング連盟(以下、日本学連と略す)が主催する、日本学生オリエンテーリング選手権大会(以下、インカレと略す)に適用される。

1.2 すべての選手登録者、選手を支援する者(以下、チームオフィシャル)、競技を運営する者及びその他の併設大会参加者・観戦者・報道関係者など選手権競技者と接する者は、この規則に従う。

1.3 競技者ならびに主管者は、この規則の解釈にあたっては、スポーツとしての公正さの保持を第一義としなければならない。

1.4 インカレ実施規則で定められた事項を、当該インカレに限定して不適用とし、変更する必要がある場合、技術委員会の諮問及び理事会の承認を必要とする。不適用条項と変更内容は、要項に明記される。

1.5 インカレ以外の大会にインカレを併設して開催している場合、この規則に定める内容を不適用とする際は、イベント・アドバイザーの同意のみを必要とし、理事会の承認を不要とする。

#### 第2条 競技部門と競技形態・種別

2.1 インカレは、次の6つの競技部門を設ける。

男子ロング：個人ロング・ディスタンス競技部門

女子ロング：個人ロング・ディスタンス競技部門

男子ミドル：個人ミドル・ディスタンス競技部門

女子ミドル：個人ミドル・ディスタンス競技部門

男子リレー：3名のリレー競技部門

女子リレー：3名のリレー競技部門 <sup>+(スプリント)</sup>

2.2 インカレは、すべて昼間競技で行う。

2.3 単一レース競技で行う。

(ミドル)

2.4 ミドルは、選手権A、選手権Bの2つの競技を行う。

2.5 インカレは、すべてポイント競技で行う。

2.6 男子ロング・女子ロングにおける優勝者をロング・ディスタンス競技選手権者、男子ミドル・女子ミドルの各選手権Aにおける優勝者をミドル・ディスタンス競技選手権者、男子リレー・女子リレーにおける優勝者をリレー競技選手権校とする。

<sup>+(スプリント)</sup>

秋インカレ(8月～12月)：ロング <sup>+(スプリント)</sup>

春インカレ(1月～3月)：

第1日 ミドル

第2日 リレー

3.3 インカレは、開会式、閉会式を別途行うことができる。

#### 第3条 日程

3.1 インカレの各競技部門の開催は、年1回とする。

3.2 インカレの日程と正式名称は、原則として次のとおりとする。

秋インカレ(8月～12月)：ロング <sup>+(スプリント)</sup>

春インカレ(1月～3月)：

第1日 ミドル

第2日 リレー

3.3 インカレは、開会式、閉会式を別途行うことができる。

#### 第4条 参加規定

4.1 選手権競技者は、以下のすべての条件を満たす。

- ・日本学連の加盟員であること
- ・初めて日本学連に登録した年度から数えて4年以内

・年齢は当該年度3月31日現在29歳未満

4.2 各加盟校及び各準加盟校(以下、各校と略す)は、選手権競技者資格を有する者からなる選手登録名簿を申し込み時に提出する。

(ロング)

4.3 ロングの競技者数は、男子60名、女子40名とし、別に定める規則によって各地区学連に配分される。但し、別に定める規則によって、競技者数を追加することができる。ロングの競技者は、選手登録名簿に記載された者とする。

(ミドル)

4.4 ミドルの競技者数は、選手権Aは男子50名、女子20名、選手権Bは男子60名、女子30名とし、別に定める規則によって各地区学連に配分される。また、別に定める規則によって、競技者数を追加することができる。ミドルの競技者は、選手登録名簿に記載された者とする。

(リレー)

<sup>+(スプリント)</sup>。人数と方式について要議論

4.5 リレーの出場資格校は、日本学連の加盟校及び準加盟校とする。各校は、男女各々1チームをリレーに出場させることができる。リレーのチームは、選手登録名簿に記載された者により構成される。但し、男子リレーに女子選手を出場させることができる。

4.6 各校は、選手登録者とは別に、チームオフィシャルを同行させることができる。各校は、チームオフィシャル登録名簿を申し込み時に提出する。各校に認められるチームオフィシャルの人数は、以下のとおりとする。

男子クラスの選手権への選手登録に対して、2名

女子クラスの選手権への選手登録に対して、2名

4.7 参加者は、自己の安全に対して自分で責任を負う。参加者が負った怪我、障害、損害について主催者は一切責任をもたない。また、参加者が第三者に与えた損害についても参加者自身が責任を負う。

#### 第5条 要項

5.1 主管者は、インカレに関する必要な情報を、要項としてすべての地区学連及び日本学連事務局へ送付あるいはWebサイトにて公開あるいはメールにて送付する。

5.2 インカレの要項の発行時期は、以下の通りとする。

要項1(6カ月前)：

開催日、開催地、主管者の連絡先、競技責任者の氏名、

イベント・アドバイザーの氏名、立入禁止区域

要項2(4カ月前)：

日程、トレインの概要、地図に関する情報(縮尺、等高線間隔、走行可能度表示)、トレインの標高(コースの15%以上が1,200mを超える場合のみ)、採用するパンチングシステム、コース設定者の氏名、

トレーニング・モデルイベントに関する情報、一般クラス・併設大会がある場合その情報、観戦者のための情報、

宿泊・輸送に関する情報、参加費、申込方法、申込締切日、申込用紙

要項3(2週間前)：

気象、特殊な地図表記、コース距離・登距離、優勝設定時間、特殊な位置説明、スタート時刻、競技のタイムスケジュール、集合場所、代表者ミーティングに関する情報、承認された実施規則の不適用条項と変更内容、その他競技に関する留意事項

## 第6条 申し込み

6.1 インカレの申し込みは、所定の用紙によって、要項2に示された締切日までに行われる。但し、選手登録名簿の変更は、大会開催の6週間前まで認められる。

**(ロング, ミドル) +スプリント**

6.2 各地区学連の代表者は、ロング, ミドルにおいて、競技前日の16時までであれば、競技者を交替させることができる。

6.3 (廃止)

(リレー)

6.4 リレー出場校は、リレーの競技者と競技順を競技前日の16時まで提出する。競技者に不慮の事故の場合、リレー競技開始1時間前までであれば競技者を交替させることができる。但し、この場合は裁定委員の承認を必要とする。

## 第7条 トレーニングとモデルイベント

7.1 事前に実際の競技で使用するものに似たトレイン・地図でのトレーニングの機会が提供されることが望ましい。

7.2 競技の前日に、モデルイベントが提供されることが望ましい。モデルイベントでは、実際の競技におけるトレインのタイプ、地図の質、コントロールの置かれる特徴物、コントロール器具の設置状態、給水コントロールの設置状態、誘導区間のそれぞれの状況がわかることが望ましい。

7.3 電子パンチングシステムを使用する場合、モデルイベントにおいて実際の競技に用いる器具の使用機会が提供されることが望ましい。

## 第8条 スタート順の決定とスタートリスト

**(ロング, ミドル)**

8.1 **ロング, ミドル**のスタート抽選は、イベント・アドバイザーの元で、あるいは公開で行われ、当該競技前日の17時までには発表される。

**(ロング, ミドル)**

8.2 **ロング, ミドル**においては、スタート順等において配慮される競技者(シード選手)を設けることができる。シード選手は、競技開催1カ月前までに理事会が決定する。人数は**男子ロング10名以内、女子ロング7名以内、男子ミドル8名以内、女子ミドル5名以内とする。** **+スプリント。人数は要議論だが、そこまで重要ではない？**

**(ロング, ミドル)**

8.3 **ロング, ミドル**は、男女それぞれ1人ずつ同一の時間間隔でスタートする(タイムスタート)。スタート間隔は、**ロング, ミドル選手権Aは少なくとも2分間はとるものとする。ミドル選手権Bは少なくとも1分間はとるものとする。**

8.4 (廃止)

8.5 (廃止)

8.6 (廃止)

(リレー)

8.7 リレーにおけるコースの組み合わせの抽選は、イベント・アドバイザーの元で、あるいは公開で行われる。コースの組み合わせは、最後の競技者がスタートするまで秘密にされる。

(リレー)

8.8 リレーのスタートは、マスタートとする。

## 第9条 成績

9.1 成績速報は、競技進行中順次掲示される。フィニッシュ閉鎖後1時間以内にすべて掲示される。

9.2 公式成績には、失格者も含めすべての競技者が記

載される。リレーの成績は、競技順・各競技者の名前と所要時間・コースの分割方法と組み合わせも記載される。

## 第10条 調査依頼と提訴

10.1 各校は、競技者、あるいは主管者の規則に対する違反についての調査依頼を行うことができる。調査依頼は、主管者に対し文書で行う。成績速報に関する調査依頼は、フィニッシュ閉鎖後1時間以内に行う。

10.2 調査依頼に対する主管者の回答に疑義がある場合、提訴を行うことができる。提訴は、裁定委員会に対し文書で行う。

## 第11条 表彰

11.1 各競技部門6位までを表彰する。ミドル選手権Bは最大3位までを表彰する。

11.2 参考記録の者及び学校は表彰の対象とならない。

## 第12条 報告書

12.1 各競技終了後3カ月以内に、主管者は次の内容の報告書を作成する。

- ・大会実施報告
- ・スタート順と公式成績
- ・イベント・アドバイザーの報告
- ・将来への提言

12.2 報告書は、すべての加盟校及び準加盟校、日本学連事務局、及び次年度の主管者に送付される。

## 第2章 競技に関する規則

### 第13条 テレイン

13.1 テレインは、インカレのコース設定に適していなければならない。テレインの選定に際しては、環境保護に十分留意しなければならない。

13.2 特定の競技者が有利になることがないように、インカレ以前には出来るだけ長い期間、オリエンテーリングに使用されていないものとする。

### 第14条 コース

14.1 インカレのコース設定にあたっては、国際オリエンテーリング連盟(I OF)の『コース設定の原則』に従う。

14.2 コースの水準は、インカレに適格でなければならない。

14.3 コントロールを回る順番は、主管者によって指定される。競技者はこれを守り、主管者はこれを確認する。

14.4 コース上の誘導区間は、競技者は必ずこれをたどるものとする。誘導区間の開始地点には必ずコントロールを置く。

(ミドル・ロング)

14.5 男子コースと女子コースは、可能な限り別のコントロールを用いる。

14.6 (廃止)

14.7 選手権以外のコースがある場合、可能な限りコントロールは別のものを用いる。

14.8 リレーでは、コントロールは分割され、チームごとに別々に組み合わせられる。全チームが順番は異なっても、全体としては同一のコースを回る。テレインとコースのコンセプトが許す場合、各走区の距離を変えることができる。全チームは、異なる距離の走区を同じ順番で走らなければならない。

14.9 個人競技種目においてはコントロールを各選手

毎に異なるように組み合わせることが出来る。但し、全選手は全体としては同じコースを走らなければならない。(バタフライ)

14.10 主管者は、環境保護あるいはそれに類する理由のための指示を競技者に与えることができる。競技者は、これを厳守しなければならない。

#### 第15条 (廃止)

#### 第16条 (廃止)

#### 第17条 距離と登距離 **スプリントは男女ともに12-15分**

17.1 **コース**は、以下の優勝時間を想定し、設定される。

	男子	女子
ロング	70-80分	55-65分
ミドル	35-40分	35-40分
リレー (各競技者)	30-50分	30-45分
リレー (合計)	120-150分	110-135分

17.2 コース距離は、スタートからすべてのコントロールを經由してフィニッシュまでの直線距離で示される。但し、物理的に通過不能な障害物(高いフェンス、湖、通れない崖等)、立ち入り禁止区域および誘導区間は、迂回した距離で測定する。

17.3 コース距離は、要項3で実際のコース距離が発表される。

17.4 登距離は最も速く走れると予想されるルートの登距離で示される。ロングの登距離は、最も速く走れると予想されるルートの距離の7%を越えないように設定される。ミドル、リレーの登距離は、最も速く走れると予想されるルートの距離の6%を越えないように設定される。

17.5 登距離は要項3で実際の登距離が発表される。

#### 第18条 地図

18.1 地図はJ O Aの『日本オリエンテーリング地図図式規程』に適合したものを使用する。特別な表記の使用は、イベント・アドバイザーの同意を必要とする。これらの変更点は、要項3に明記される。

18.2 地図印刷後に生じたトレイン内の変化のうち、競技に影響を与えるものは、地図上で修正される。

#### (ロング)

18.3 ロングに使用する縮尺は1万5千分の1で、等高線間隔は5mとする。トレインを適切に表現するため、またはコース設定・競技上の制約等のため、これと異なる縮尺、あるいは、等高線間隔の使用は、イベント・アドバイザーの同意を必要とする。

#### (ミドル、リレー)

18.4 ミドル、リレーに使用する縮尺は1万分の1で、等高線間隔は5mとする。トレインを適切に表現するため、またはコース設定・競技上の制約等のため、これと異なる縮尺、あるいは、等高線間隔の使用は、イベント・アドバイザーの同意を必要とする。

18.5 競技に影響を与える恐れがあり、かつ、地図からは読み取れないトレイン内のコンディションについては、遅くとも要項3で発表される。

18.6 競技用地図は、水分や損傷に耐えるように両面が保護される。

18.7 競技に使用するトレインに過去のオリエンテーリング地図がある場合、これらの地図は、競技に先立ってすべての加盟校及び準加盟校に公開される。

18.8 競技当日は、主管者の許可が出るまでは選手登録者及びチームオフィシャルが競技区域のいかなる地図を利用することも禁止する。

#### 第19条 地図上でのコースの表記

19.1 競技用地図は、以下のように表記される。

- ・オリエンテーリングの開始地点は、正三角形(1辺7mm)。
- ・コントロールは、円(直径6mm)。
- ・フィニッシュは、2重同心円(直径5mmと7mm)。
- ・誘導区間は、破線。

19.2 三角形、及び、円の中心は特徴物の正確な位置を示す。コントロールフラッグが特徴物の周囲に設置される場合でも、特徴物を中心として印刷される。

19.3 コントロールは、回る順番を指示するために、南を下にして正立された数字によって示される。

19.4 誘導区間がある場所を除き、三角形と円は、直線により、順番に結ばれる。コントロールの円とそれを結ぶ直線は、重要な地図上の表現を見えにくくする場合には、部分的に直線を切ったり、細く描いたりすることができる。

19.5 誘導区間は、すべて地図上に示される。誘導区間の終端から再びオリエンテーリングを開始する場合は、地図上で破線の終端と次のコントロールが直線で結ばれる。

19.6 コース印刷においては、透明な赤紫色、あるいは赤色を使用する。

#### 第20条 その他の追加表記

20.1 危険回避のための立ち入り禁止の範囲は、斜めクロスハッチングをする。その他の理由による立ち入り禁止の範囲は、垂直ハッチングをする。外郭線は以下のように表記される。

- ・現地でテープなどが連続して表示される場合は、実線。
- ・現地でテープなどが間隔をおいて表示される場合は、破線。

・現地で表示のない場合は、外郭線を記入しない。

20.2 通行禁止のルート(自動車道など)は、×の連続で表す。

20.3 外向きの2つの括弧(は、コースに関する重要通過地点、経路(例:渡河地点、道の下のトンネル)を示すのに用いられる。

20.4 追加表記の色は、コースと同一の色とする。

#### 第21条 コントロール位置説明

21.1 コントロールの位置説明は、J O Aの『コントロール位置説明仕様』に従って作成する。

21.2 コントロール位置説明表は、地図の表面に貼付されるか、印刷される。

#### (ロング、ミドル) +スプリント

21.3 コントロール位置説明表は、競技が開始されるまでに参加者に配布される。

21.4 (廃止)

(リレー)

21.6 リレーで使用されるすべてのコントロール位置説明の一覧は、リレー前日の代表者ミーティングが始まるまでに参加各校の代表者に配布される。但し、コントロールのつながりについては表示されない。

#### 第22条 現地における表示

22.1 誘導区間は、赤と白の2色のテープにより示される。

22.2 立ち入り禁止区域の外郭が表示される場合、青と黄の2色のテープにより示される。

スプリントは  
1:4000&2m  
または  
1:15000&2.5m

## 第23条 コントロールの設置と器具

23.1 すべてのコントロールには、コントロールフラッグが設置される。

23.2 コントロールフラッグは、3つの正方形を三角柱状に結合した形とする。それぞれの面は、およそ30cm×30cmで、対角線によって2分して白とオレンジに色分けする。

23.3 コントロールフラッグは、地図上に示された特徴物の場所に、競技者が特徴物にたどり着いたときに見えるようにして設置される。

23.4 コントロールは、互いに30m以内に近接して設置してはならない。さらに、特徴物が同じコントロールは、互いに60m以内に近接して設置してはならない。

23.5 コントロールは、その場所に競技者がいるかいないかで難易度が変わらないような場所が望ましい。

23.6 すべてのコントロールは、数字によるコントロール識別番号で区別される。コントロール識別番号は白地に黒で書かれ、競技者がはっきり読めるように示される。

23.7 コントロールの器具は、コース上のすべてのコントロールで同一のものを使用する。十分な数のパンチもしくはユニットをコントロールフラッグのすぐ近くに設置する。

23.8 コントロール役員を置く場合は、コントロールを通過した競技者のナンバー、及びチェックした時刻を記録する。また、コントロール役員は競技者を妨げてはならず、タイム・順位・その他の情報を与えてはならない。さらにコントロール役員は、静粛に、目立たない服を着用して、競技者がコントロールに接近するのを手助けしてはならない。これらの規則は、ラジオやテレビコントロール役員、給水コントロール役員、報道関係者にも適用される。但し、演出の都合で情報の提供が行われる場合はイベント・アドバイザーの了承を得て実施することが出来る。

23.9 優勝設定時間が45分を超える競技は、給水所を設ける。給水所には、飲料水が用意される。

## 第24条 パンチングシステム

24.1 使用するパンチングシステムは、別にこれを定める。

24.2 コントロールカードは、競技開始に先立って競技者もしくは参加各校の代表者に配布される。

24.3 競技者は、各コントロールにおいて用意された器具を用いてコントロールカード（電子コントロールカードを含む）に正確にパンチして記印する責任を有する。正確なパンチを故意に怠ることにより利を得ようとした競技者は、失格とされる。

24.4 コントロールカードにパンチされていない、あるいは判別できない場合、この競技者は失格となる。但し、その理由が競技者の過失でないもの（パンチ・ユニットの不調や紛失など）であった場合は、失格とされない。

## 第25条 スタート

**(ロング, ミドル) +スプリント**

25.1 ロング, ミドルはプレススタート方式とすることができる。この場合、競技者がスタートへゆっくり走って行って間に合うようにプレススタートを設定する。

**(ロング, ミドル) +スプリント**

25.2 競技者はスタートと同時に自分で地図を取る。  
(リレー)

25.3 リレーでは、第1競技者はスタートと同時に、以降の競技者はスタート後の地図の支給地点で、自分で

地図を取る。

25.4 正しい地図を取るのは、競技者の責任である。主管者は、競技者が他の競技者によって妨げられることなく地図を取れるように配慮し、競技者が間違っただ地図を取らないように充分注意する。

25.5 すべての競技者は、最低20分のウォーミングアップをする時間を取れる。スタート前の競技者とチームオフィシャル以外は、ウォーミングアップエリアに入れない。ウォーミングアップエリアは、スタートのできる限り近くに設定する。

25.6 オリエンテーリングの開始地点は、地図上で三角のスタート記号で示される。現地にはコントロールフラッグを置く。

25.7 オリエンテーリングの開始地点は、地図面あるいは先行する競技者のルート選択が、スタート前の競技者その他に見えないような場所に設定される。必要に応じて、スタートからオリエンテーリングの開始地点までを誘導区間とすることができる。

25.8 競技者が自己の責によりスタートに遅刻した場合、到着次第すぐにスタートすることができる。この場合、正規のスタート時刻にスタートしたものとして計時される。主管者は、正規にスタートする競技者に影響を与えないように、いつスタートさせるかを定めることができる。

25.9 主管者の責により競技者が遅刻した場合、競技者は、新しいスタート時刻を与えられる。

(リレー)

25.10 リレーでは、次競技者は引継を受ける3分以上前に、前競技者が近づいたことを告知される。但し、主管者は告知に問題があっても責任を負わない。

(リレー)

25.11 リレーにおいて、次競技者への引継は、指定された区域（チェンジオーバーエリア）で、両競技者の接触により行う。

(リレー)

25.12 リレーにおいて、運営を円滑に行うために、未出走の競技者をマススタートで出走させることができる（リスタート）。

## 第26条 フィニッシュ

26.1 計時線は、フィニッシュへの走路に対して直角とする。

26.2 計時線は、競技者が遠くから識別できるようになっていなければならない。

26.3 計時線を通過した競技者は、コントロールカードと、パンチ記印のついたあらゆるもの（例：コントロールカードケースなど）をフィニッシュ役員に手渡す。リレーでは、地図とコントロール位置説明表も手渡す。

26.4 フィニッシュ閉鎖時刻は、事前に発表される。

26.5 フィニッシュ地点には、救護所を置く。

## 第27条 計時と順位

27.1 フィニッシュ時刻は、計時線のところで計られる。その時刻は、競技者の胸が計時線を横切った時刻、あるいは競技者が計時線上でパンチした時刻とする。計時は秒単位まで行う。秒以下については切り捨てる。タイムは、時・分・秒、あるいは、分・秒のどちらかで表示される。

27.2 コントロールを抜かした場合（あるいは、間違っただコントロールをチェックした場合）、また、指定された以外の順番でコントロールを回ったことが判明した場合には、競技者は失格となる。

(ロング, ミドル)

27.3 2人以上の競技者が同タイムの場合、これらの競技者は同順位となる。成績表・報告書の中で彼らは同順位となるが、スタート順に並べられる。また、この場合次の順位は空位とする。

(リレー)

27.4 リレーでは、チームの全競技者の合計タイムがそのチームの成績となる。チームの順位は、最終競技者のフィニッシュした順番により決定される。着順判定員が順位判定を下す。同着はない。

27.5 リスタートをしたチームは参考記録とする。

27.6 競技時間は、ロングでは2時間30分まで、ミドル選手権Aでは1時間40分まで、ミドル選手権Bでは1時間40分～2時間までとする。この時間を越えた競技者は失格とする。リレーでは5時間までとする。この時間を越えたチームは失格とする。

## 第28条 服装と用具

28.1 主管者が定められない限り、服装の選択は自由である。

28.2 ナンバーカードは、競技中常にはっきり見えるようにして、胸と背中に着用する。ただし、ミドルに関しては少なくとも胸に着用すればよい。ナンバーカードの大きさは、25×25cmを超えないものとする。数字は、最低でも10cm以上の高さが必要である。

28.3 競技中は、コンパス、時計と、主管者から支給された地図、コントロールカード、コントロール位置説明表のみ使用してよい。その他のオリエンテーリングの技術的な補助器具の使用は禁止する。

## 第29条 競技上の公正

29.1 インカレに関与するすべての者は、公正と正直を旨に行動しなければならない。スポーツ精神と友情を忘れてはならない。競技者は、他の競技者、役員、報道関係者、観客、テレインや大会区域に居住する人々を尊重しなければならない。

29.2 主管者は、イベント・アドバイザーの同意を得て、前もって競技を行うテレインの位置を公表するとともに、立入禁止区域を設定することができる。テレインの位置を公表しない場合、すべての役員は、大会区域とテレインを厳重に秘密にしておかなくてはならない。

29.3 選手登録者及びチームオフィシャルは、競技を行うテレインにあらかじめ立ち入ることは禁止される。主管者により発表された事項以上のコースに関する情報を得ようとする行為は、禁止される。

29.4 競技中は、以下の行為を禁止する。

- ・ 外部からの助力を得ること
- ・ 共同で走り、方向決定を行うこと
- ・ 故意に他の競技者を追走し、その競技者の能力を利用しようとする
- ・ 他の者から情報を得ようとする

29.5 競技者は、一度計時線を越えたら、主管者の許可なく競技区域に入ってはいけない。

29.6 棄権した競技者は、フィニッシュを必ず通過し、コントロールカードを主管者に渡さなければならない。また、この者は、決して競技に影響を及ぼしてはならず、他の競技者を助けてはならない。

29.7 あらゆる種類の移動手段の利用は、禁止される。

29.8 参加者及び主管者は、競技を妨害してはならない。

29.9 インカレ実施規則を犯したことが判明した競技者は、失格となる。

29.10 主管者は競技の公平性を尊重する立場から、参加者に対し、必要に応じてドーピング検査を実施する

ことができる。なお実施条件を29.11に設ける。

29.11 インカレにおいて主管者が参加者に対しドーピング検査を実施する場合、要項2（4ヶ月前）でドーピング検査実施の可能性を示し、要項3（2週間前）でドーピング検査の有無を決定付けるものとする。

## 第3章 運営に関する規則

### 第30条 インカレ実行委員会

30.1 インカレは、インカレ実行委員会が主管する。

30.2 インカレ実行委員会は、当該インカレの1年前までに理事会の承認のもとで組織される。

### 第31条 秘密保持

31.1 主管者、イベント・アドバイザー及びその補佐、その他テレインやコースを知る者は競技上の公正さを保つための秘密を保持する義務を負う。

### 第32条 経費

32.1 インカレ運営に関する経費は、主催者が支出する。

32.2 主催者は、参加者から参加費を徴収することができる。

### 第33条 裁定委員会

33.1 裁定委員会は、異なる出身校の3名で構成される。裁定委員は、理事会が指名し、競技の前日までに全員の氏名が公表される。裁定委員は、大会組織に関与してはならない。

33.2 裁定委員会の審議には、イベント・アドバイザーと主管者の代表は参考人として出席することができる。

33.3 裁定委員会は、大会中に起きた規則あるいはその他の問題に対する提訴に裁定を下す。裁定委員会の審議は、3人全員の出席をもって成立する。任務を遂行できない裁定委員があったときには、理事会は代理を指名しなければならない。

33.4 裁定委員会の判断は最終的なものである。

### 第34条 イベント・アドバイザー

34.1 イベント・アドバイザーは、日本学連を公式に代表し、主管者に対して派遣される。

34.2 イベント・アドバイザーは、技術委員会の助言のもとに、技術委員会からの委員の中から理事会が指名する。指名は、当該インカレの1年前までに行われる。

34.3 イベント・アドバイザーの主な任務は、インカレ実施規則が遵守されていることを確認することである。また、必要のある事項については技術委員会との協議を行う。

34.4 イベント・アドバイザーは、インカレが適正に行われるように、少なくとも以下の任務を遂行する。

- ・ 要項の内容を確認すること
- ・ 会場、テレインの適格性を確認すること
- ・ スケジュール全体（宿泊、食事、輸送、日程、費用、トレーニングの機会）を確認すること
- ・ スタート、フィニッシュ、チェンジオーバーエリアのシステムとレイアウトを確認すること
- ・ 計時システムの信頼性と正確性を判断すること
- ・ 地図が規定に合致しているか確認すること
- ・ 地図の正確さ、作図・印刷の妥当性を確認すること
- ・ コースの適格性（距離、競技時間、難易度、コントロール位置と設置状態、偶然性の排除など）を確認すること

- ・リレーにおいては、コースの分割方法と組み合わせが適切かどうか確認すること
- ・コントロール位置説明が適切かどうか確認すること
- ・式典が適切かどうか判断すること
- ・競技への影響の可能性の観点から、報道関係者、観客等に対する処遇を確認すること
- ・運営組織、人事、会計及び競技運営全般を確認すること

34.4 インカレ開催中、イベント・アドバイザーは、大会会場に常駐し、以下の任務を遂行する。

- ・主管者に対して助言を与えること
- ・裁定委員会の提訴に関わる審議を補佐すること

34.5 イベント・アドバイザーは、以上の他に自分の裁量で、インカレの準備と実行に関係ある活動を確認する。

34.6 イベント・アドバイザーは、必要に応じて任務を補佐する者を指名することができる。イベント・アドバイザー補佐は、特に、地図作成、コース、イベント、運営組織、人事、会計、スポンサー、メディア等のうち、イベント・アドバイザーが必要と考える分野において、任務を補う。

34.7 イベント・アドバイザーとイベント・アドバイザー補佐に関わる経費は、主催者が直接に支出する。

### 第35条 報告

35.1 主管者は、当該インカレ開催後2週間以内にイベント・アドバイザーに以下のものを送付する。

- ・公式成績
- ・各競技部門のコース図および全コントロール図
- ・その他必要と思われる資料

35.2 イベント・アドバイザーは、当該インカレ開催後3カ月以内に幹事会、理事会及び技術委員会にその活動の報告を送付する。

35.3 主管者は、すべての要項とプログラム、大会報告書を日本学連事務局に送付する。日本学連事務局は、これらを資料として保存する。

### 第36条 メディア・サービス

36.1 主催者および主管者は、メディア取材者に対して、報道するに好都合な機会を提供することが望ましい。

36.2 主管者は、競技の公平さを損ねない限りにおいて、

メディアの報道のために最大限の努力をすることが望ましい。

### 第37条 改正

37.1 本規則の改正は総会の議決による。

### 第38条 施行

38.1 本規則は2004年4月1日より施行する。

38.2 本規則は2004年11月8日より改正施行する。

2003年11月15日 制定  
 2004年11月6日 改正  
 2005年11月7日 改正  
 2007年4月1日 改正  
 2008年3月10日 改正  
 2009年11月22日 改正

2014.5.31 日本学生オリエンテーリング連盟幹事会 6.1 臨時総会 インカレスプリント議案趣意書

文:インカレスプリント実験大会執行者 山川克則

【決する内容】 A4判2枚以内に短く要点をまとめたのが本書です。印刷版として配布するのはこれ。

インカレスプリントの公式な立上げを決議いただきたい(総会決議必要事項) 半数の賛成で決議していただきたい。

### 【経緯】

5年前に試行大会を全日本スプリントに併せて実施し、4年前に一度決議を取って否決した内容であるが、一般の総会ではこれ以上のモラトリアム(試行大会とか実験大会とか)は行わず、議論は十分に熟されていないし、実験大会で明らかになった不十分な点もまだ解決途上であるが、それらは正式立ち上げを経た上で、議論を尽くしてさらにより良いものに変えていく、きちんとモチベーションが持てる大会にステータスアップしてくべきだと考える。

### 【背景】

インカレスプリントが4年前に否決された、そして今でも学連加盟印全員が賛同しているわけではないことは重々承知の上での発議である。気持ちの底まで手繰って多数決で決するのであれば多分今でも否決であろう。つまり、それだけガチスプリント種目を競技として取り組んでいく人はまだ少数派ということである。しかし、世界および国内の競技環境という点からは、日本を代表する競技組織である日本学連が今の状況において正統なキャリアアップの仕組みを持たないことは大きな責任放棄であると考えられる。参加する学生クラブ側やその下の仕組みを構築しなおす地区学連のリソース負担のことも考慮にいれなければならないが、推進して進めていくOBの熱意量に関しても同じく考慮をするべきである。4年前の否決から今の発議まで山川は踏みとどまって時間のない中準備が十分に出来ず批判も浴びながらこうして進めてきたが、この間でこの面での人材リソースを多く失ってしまったこともまた事実である。今回決することが出来ない場合、今度は山川がこの作業から離れる(学連は人材を失う)ことになる。(学生はモラトリアムがある意味許される世代だが、オトナの人事というのはそういうものである。)次に進める人の必要なエネルギーは計り知れない。否決するにも責任が生じる、と昨年の幹事会・総会で私は言い続けてきたが、それは今も同じ。まだインカレスプリント推進が多数派でないことは十分認識しているが、スポーツの組織である以上通して欲しいし、否決をするからには、それがスポーツの統括団体としてどう責任をとれることになるのかの説明を込みで行って欲しい。この4年間私を動かしてきたのも、組織としての責任、それに尽きる。

### 【進め方】

まずスプリントに関する今の状況をざっくり書き並べてみる。

ガチスプリントは少数派、エリートだけの種目、これ以上の運営リソースの負担増大は避けたい、改善点は沢山、世界ではメディアやよりメジャーな舞台での訴求的戦略種目、ナビゲーションとフィジカルのバランスまで問うオリエンテーリングという競技のある意味で最も先鋭化した種目、まだまだ進化する中で改訂は随時なされ世界の動向にもアンテナを張ってわが国でも柔軟に対応することが必要な種目、トレインによる地域ハンディのない種目と言われながらわが国では実はフォレストの種目以上に対応が遅れガラパゴス化が進んでしまった種目、そもそも若い人(足が速いことが前提)の種目、フォレストオリエンテーリングとは違う適性でも選手をすくい上げる事ができる種目、パークOとは似て非なる種目(まだ正しく理解している人は少ない…実は自分もそうであったことが実験大会を通して指摘された)、調査する面積が少ない分準備工数(予算)はフォレストより少なくても済むがそれでも参加費収入のみで支弁することが難しい(そこもパークOと違う大きな点、また工数という点では作図負荷は図式の違いによりフォレスト種目よりずっと多い)、公正さが何より

重視され運の介入を極力排除した種目(そのための運営準備ステップはフォレスト種目よりずっと多い……etc (必要に応じて口頭で、および後刻に追加)

これらのことをすべて考えにいった進め方をしていきたい。

組織として必要な準備を、規則、ガイドライン、選手選考規則の3点に分け、学連の規約上総会決議が必要な規則のみを総会の決議対象として、あとの2つは意見を出来るだけ吸い上げてスピーディ且つ柔軟に対応できるようなシステムで進めていくのがよいと思う。

**規則**(大西技術委員長が提示/全種目について述べた規則の一部文章を改定) スプリントに関しては最低限のことだけを記述する。ロングとくっつけるか、ミドル&リレーとくっつけるか、単独の大会とするかそのことにも触れない。

**ガイドライン** 上述のように今でも進化中の種目である。多くの識者先駆者から意見を集約し必要なことを記述していく。常にアンテナを張りその動静に柔軟に対応していく必要がある。また潜在的な部分も含めて不満な点を極力すくい上げ運用に反映していく必要があると考えている。別資料同時提出で今回の幹事会総会向けに山川がこの1年間で指摘されたことやアンケート結果などから抽出して記述するが、文案の完成は大西技術委員長と山上ロング実行委員長で進めていただきたい。

**選手選考規則**(山川案) 技術委員会案と違っているのでそこは議論要、とりあえず本年は

0. 前年度インカレスプリント(実験大会)・全日本スプリント選手権クラス完走者
1. 市井のスプリントやパークO大会(過去1年以内)上位男子1/10以内、女子1/5以内
2. 地区学連推薦(自薦でも良い)3名以内(人数は討議要)
3. 加盟校推薦(自薦でも良い)1名以内(人数は討議要)
4. 全体で男子40名女子20名を超えた場合は選考委員による足切り  
(人数は討議要)・・・本年は原則行わない

Q&A 人数枠に関しては、今年度の運営からは男子60名、女子30名という案で進めているとのこと  
地区推薦は、合宿併催の地区セレ開催とかで決めてもOK

【今回のロング実行委員会が今のところ準備できている内容】

山上氏から資料が提示されていますので、その内容を併せての議論をお願いします。

【提案者：山川の今後の立ち位置】

否決された場合：オトナの人事抗争の常としてこの面では一旦全面撤退になります。生業のかなりの割合が学連の仕事ですから全部離れる訳ではありませんが、スポーツ団体として当然の責任と思うことが認められなかったことのしこりは残ると思います。

決議された場合：実験大会での大きな反省点でもあるのですが、今後は全部を背負い込むような行動は一切しませんと自己に戒め。また後進の者もそういうことはあってはならないと思います。スプリントには色々な面からの検証が必要でそれは別の人の目でしかもそれぞれが専門的に長けた人の目で行わなければならないことを今回学びました。自分の専門である地図作成については求められればあるいは他にリソースがない場合(つまり若手マッパー中心でよい)には自分が協力することを惜しみませんが、もっぱら組織としての推進役(枠組みの構築)に汗を流し、YMOE社の収支が順調である限りは、資金的にもスポンサーとして後方支援していきたいと考えています。前面での活躍は運営も選手も若い人中心の種目であると思います。お金の問題も諸々あるでしょうが学連資産の有効利用を訴える事業を起こし、逆に年間250万超の純利益を生む事業を産んでいる人間の発言力であることは考慮に入れていただきたい。



インカレスプリント実施ガイドライン

日本学生オリエンテーリング連盟

草稿レベル：山川

1. 目的
2. スプリント種目の定義
3. パークOとスプリントとの根本的違いについて
4. 実施形態
5. 選手出場規則
6. 予選の考え方
7. 他の大会とのコラボ
8. 参加費徴収について、
9. 運営予算について
10. 良い運営とは
11. 良いトレインとは
12. 良いコースとは
13. 良い地図とは
  - 13-1. 地図の縮尺
  - 13-2. 地図の見易さ
  - 13-3. スプリント地図特有の記号
  - 13-4. スプリント地図特有の植生表現
14. 良い演出とは
15. 選手の隔離について
16. 公正さの確保
17. 大会コントロールシステムについて

---

---

実験大会反省点

1. 調査・コースの作成が直前までずれ込んだ。大雪の影響で山川も本戦の調査の **finishing** に1週間前までかかった。アドバイザーに吉田ツトム氏、加藤氏の協力を得ていたが順次調査ができてからのコース組みで、そこでも大きく修正をアドバイスされたが、地図ができてからのコースの妥当性、地図表現の妥当性について今の世界規準に相当するところまで検証の時間が取れず行き着けなかった、具体的な例としては、a. S-1mのヤブとコンタの混色表現で妥当な表現ができず問題を残した。b. 臨時の障害物が、効果的に

設置できたとはいえなかった。c. スプリント特有の植生表現について、最新の正しい表現ではないと指摘された部分があった。

2. 選手隔離が効果的だとはいえなかった。会場・トレインの問題があるとはいえ公正さを突き詰めた観点からは公正であったとはとても言えなかった。

3. スタートの管理が十分機能しなかった、またスタートフラッグの位置も問題があった。同じ位置でも、最終コントロールに向かう競技中の選手からは、微妙に見えない位置におくべきであった。

4. 青黄色テープで選手が間違っ入りそうなこと全てを囲うことができなかった。またそこに監視の役員をおくこともできなかった。地図には立ち入り禁止が表記されていたので、全部失格にしてもよかったのであるが、あれだけの人数が立ち入ってしまうことに対して、事前のシュミレーションが出来ていなかった点で、これはもう運営側の負けであると考え、表彰は失格者を出さずに行った

5. 観客に対する配慮・準備が後手後手まわり、優先度後回しになり、コース地図を 50 部配るにとどまった。十分に情報を与えたとはとても言えるものではなかった。

6. 根本的に役員の数も足りなかった。確保した役員もインカレ実行委員会兼務だったり、オフィシャル兼務だったり、十分な事前打ち合わせができたとは言えなかった。

他にも言えないようなミス多発だった。

## 技術委員会活動報告

2014/05/31(文責：大西)

### 1、WUOC2014

#### 4月の選考会において

今年の8月にチェコで行われるユニバーの代表選手が決定いたしました。  
大会は2014/8/12～2014/8/17にチェコのolomoucで開催されます。  
応援よろしくお願ひします。

尾崎 弘和 早稲田大学 4年 (推薦)  
真保 陽一 東京大学 卒 (選考会ミドル1位)  
高橋 祐貴 新潟大学 卒 (選考会ミドル3位)  
戸上 直哉 東京工業大学 3年 (選考会ミドル4位)  
細川 知希 名古屋大学 卒 (選考会ミドル2位)  
松下 睦生 京都大学 4年 (推薦)

砂田 莉紗 横浜市立大学 3年 (推薦)  
高橋 美誉 岩手大学 卒 (推薦)  
宮川 早穂 立教大学 3年 (選考会ミドル1位、インカレミドル優勝)  
守屋 舞香 椋山女学園大学 3年 (選考会ミドル2位)  
柳川 梓 筑波大学 卒 (選考会ミドル4位)  
渡邊 彩子 早稲田大学 4年 (選考会ミドル3位)

### 2、学連合宿について

第1回日本学連合宿を八ヶ岳(7/12-13)にて行います。

第2回については日程がないため8月23-24に富士にて開催予定です。

JOA合宿(アジア選手権対策)と併催の予定。

### 3、インカレロングイベントアドバイザーについて

10月に行われるインカレロングのイベントアドバイザーが決定しました。

金沢大OBの小林 力さんです。詳しくは日本学連のMLを参照ください。

### 4、規約改正について

#### 4-1 インカレスプリントに関して

インカレスプリントをするかどうかということは総会での議決にゆだねるとしてすでに今年の秋には福井でのインカレロング前日にインカレスプリントをする準備ができています。山上実行委員長と実際にスプリントを行う上での運営上や枠の設定などのところで議論しました。とりあえず前例がありませんので、やってみないと適切な枠というものは見えてこないと思いますが、今回に関して規約を作成するという事で仮に枠の数やその決め方を案として示していきたいと思います。もし不都合があれば来年度以降改正されていくのではないかとということで仮に決めて運用しながら見ていくべきだと思っています。

枠の数について技術委員会では男子 60、女子 30 を考えています。枠の数を絞りすぎてしまうとスプリントを普及させていく観点からもデメリットとなりま  
すし、フォレストとは違ったスプリントに特化した選手が出てくることも期待  
しての数です。実際に男子で枠が 30 や 40 だと非常に厳しいセレになると思い

ます。(後で述べる地区枠方式にも関連していて、地区学連への枠がとてま少なくなるパターンがあるため)

選考方法について

ミドルやロングと同じ地区枠で地区セレ方式。

昨年度の山川さんの 10%の上位者という基準は大会ごとのばらつきもありますし、大会がやはり都市圏に集中していたり大会の参加人数によって左右されてしまうからです。それよりも枠を地区学連ごとに設定して決め方は各地区学連に委ねるほうが公平ではないかと思っています。山川さん方式で実際に人数を超えた場合の選考委員による選考という方式ではスプリントランキングみたいなものを参照しない限り、選手を選ぶのが難しいです。そして、それをするのは非常に負担が大きいです。

初年度は学連枠はそのままですが、実績枠はとりあえず加盟員数で配分というのがいいのではないかと思います。来年度以降はロングやミドルのように実績枠で運用していけると思います。

個人実績枠もロングやミドル同様で考えています。

実際にそうなった場合にこれから半年の間にスプリントのセレを地区学連で行

わないといけません。そこは確かに大変だということは理解していますが、インカレスプリントを始めるにあたって急なスケジュールになってしまうところはご了承ください。

具体的な案としては、地区学連内の近場のスプリントの大会をセレにする。今年度は過去の実績を見て推薦のみで決めてしまう。新たに地区セレ（スプリント）を設定する。推薦で決める場合には走力で推薦するのも面白いかもしれません。

#### 4-2 ミドルのB決勝廃止&A決勝の人数を増やす。

まずこれまでの経緯として 2009 年に以前まで行っていたショートまたはミドルの予選決勝方式は運営の負担がでかいということで一本化が図られてきました。その時にできたのが A 決勝と B 決勝というエリートが 2 クラスになるという方式です。過去の議事録を見返しても中堅層のモチベーションを上げるという理由が書かれてありました。

このことに関して 3 月の幹事会でも意見をいろいろと聞きましたが、やはり女子の今の人数やレベルを考えると 2 クラスもエリートは必要ないと思いますし、1 クラスにして今ある 20 の枠を増やすほうが良いと考えています。現状地区によってはすごく数が少なくなっているところもあります。

また、中堅層のモチベーションということであれば一般クラスの上位クラスを作ればいいのかと思っています。A 決勝、B 決勝とあることで B 決勝で満足してしまって上を目指さなくなるのも嫌ですし、A 決勝のエリートのプレミア感が薄くなってしまっているというのはあると思います。

ミドルについては 4 月にアンケートを取るというところだったと思いますが、忙しく大変遅くなってしまいすみません。今回の臨時総会にてアンケート（別途参照）を配り学生の意見を聞き次回総会での改正を目指したいと思っています。

#### 5、リテラメッド社協賛遠征費補助制度について

この支援事業を知らない方も多いたと思いますが、2006 年くらいから海外へ遠征する学生への金銭面での支援をするために山岸倫也さんの会社であるリテラメッド社がインカレ優勝者に対する特典としてオーリンゲンアカデミーへの参加費を補助する（交通費は自腹）という形で始まりました。年によっては全日本大会の 20E にも同じような特典が与えられたり、2009 年にはインカレ優勝者が必ずしもオーリンゲンに行けないため入賞者までは繰上げできるという話になったりしました。しかし、2 年前に結局交通費が自費なので本当に金銭的な支援になっているのかということが疑問だということで人数を絞って 1 名に対して

交通費も含めた大会参加費を援助する形に変わりました。また、オーリンゲンだけでなく JWOC、WUOC、WOC などの世界選手権も支援対象なので、前回は JWOC 代表の高橋みえ選手が支援を受けております。

ただ 3 名から 1 名を選ぶのに将来への計画も含めた文章を書いてもらい技術委員会にて選考を行いました。

昨年度は話がないまま終わってしまいましたが、今年度この支援事業を志望する学生の声とリテラメッド社のご厚意により復活する運びとなりました。2 年前までは JOA の事業で選手の選考のみ学生の事情に詳しい技術委員会という話でしたが、今年度からは学連で主導していくこととなりました。

というのも JOA ではこの事業について宣伝もなければ報告書の掲載もなくいったい今まで誰がこの支援を受けてきたのかもわからないですし、昨年度なくなってしまったのも JOA のモチベーション低下によるものだと思っています。

なのでなるべく学連側としては学生にもこの事業があることを知ってもらいインカレで好成績を収めて海外遠征への将来像を構築して欲しいなと思います。

今年度の補助に対しては現在選考中で幹事会までに報告できればと思いましたが、厳しそうです。